

# ネットワークボード

「手から手へ展」は、子供の本に関わる日本の絵本作家たちが中心となり、「3.11後の世界から私たちの未来を考える」というテーマで世界の仲間たちに呼びかけて作品を募った展覧会です。震災から1年後の2012年イタリアのボローニャを皮切りに、ブラティスラヴァ、ワルシャワ、アムステルダム、コペンハーゲンのヨーロッパ諸国を駆け巡り、世界の人々に思いを届けてきました。今回の日本での開催には、さらに多くの絵本作家が参加しています。7か国110人の絵本作家たちが、未来を生きる子供たちへの思いを込めて描いた作品が展示されています。同時開催の「いわさきちひろ展」とともに、親子でも友達同士でも楽しめる展示会です。夏の思い出作りに出かけてみはいかがでしょうか。

## 「手から手へ展」 ～絵本作家から子供たちへ 3.11後のメッセージ～

会 期:5月22日(水)～8月4日(日)  
開館時間:10:00～17:00(入館16:30まで)  
会 場:ちひろ美術館・東京  
住 所:東京都練馬区下石神井4-7-2  
(西武新宿線上井草下車徒歩7分)  
休 館 日:月曜日(祝休日は開館)  
入 場 料:大人800円 高校生以下無料  
同時開催:「いわさきちひろ展」～平和で、豊で、美しく、可愛いものがほんとうに好きで～  
※期間中、関連イベントも多数開催  
問合わせ:03(3995)0612

## こんにちは理事長です

今回は、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)について、普段感じていることとお話したいと思います。SNSとは、社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスですが、最近では個人はもとより、企業やNPOといった組織団体でもビジネスモデルとして幅広く活用されています。ぱれっとのセクションでも、たまり場とおかし屋ぱれっとで「Facebook」を立ち上げ、利用者の方やボランティア、顧客といったぱれっとと既につながりができている人たちに向け情報発信を行なっています。ホームページとはテイストが違い、日々の活動や現場の人たちの動きや声が臨場感を呈して伝えられるメリットはあります。しかし、SNSは一方向的なコミュニケーションツールであることをわきままえ、発信者が受け手側への配慮に欠けた時、情報の洪水となる危険性もはらんでいます。

現代社会において、溢れかえる情報の中から自分が必要とするものを取捨選択する力が求められています。現代病として情報洪水症候群なるものもあるようですが、仕事柄、いかに効率よく情報を集め仕事に生かすか、毎日のメールの洪水に溺れないよう思い切って削除する勇気?も必要なようです。あらゆる状況の変化に対応できる心の余裕とキャパシティが問われる時代になってきました。TOPには判断と決断力が益々求められます。

特定非営利活動法人ぱれっと

理事長

相馬宏昭